

日頃、当協会の格付事業にご協力ご理解いただきまして、ありがとうございます。この場をお借りしましてお礼申し上げます。

本日は第 35 回受精卵産子と牛枝肉共励会の開催、誠にありがとうございます。

35 回目のこの共励会が、この様に盛大に開催されましたことは、生産者の皆様が丹精込め肥育されました出品牛の成果を競い、趣旨であります「家畜改良事業団の種雄牛を使用した体外・体内受精卵移植により生産・肥育した黒毛和種枝肉を需要者にアピールするとともに、受精卵による黒毛和種の生産振興に寄与する」ことを目的とする意義深いものであり、主催者であります畜産ニューテック協会、また協賛する家畜改良事業団及び東京食肉市場、そして関係各位の皆様のご尽力の賜物と敬意を表する次第です。

また、我々が公正で適正な格付評価をして、その格付結果及びデータが生産性向上に貢献できることを切に願っております。

当協会関東支所長の厚地が本共励会の審査員を拝命いたしておりましたが、本日別件で出席できませんので、支所長に代わりまして、次長の私、名取が審査員を代表いたしまして、審査結果と講評についてご報告させていただきます。

まず、本日の共励会には、和牛 60 頭の出品があり、去勢 43 頭、雌が 17 頭という内訳になっております。(昨年は去勢 45 頭、雌が 15 頭)

格付した結果では、和牛去勢は A5 が 26 頭、A4 が 15 頭、B4 が 2 頭、和牛雌は A5 が 8 頭、A4 が 7 頭、B5 が 1 頭、A3 が 1 頭という結果になっており、4 等級以上が去勢で 100%、雌で 94.1%という好成績でありました。昨年に比べても成績はアップしております。(昨年は去勢 93.4%、雌 82.1%)

和牛去勢の枝肉重量は、最も大きいもので 653 kg、小さいもので 436 kg、平均すると 548.3 kgとなっており、これは 29 年次の全国平均 498.9 kgと比べて、大きな重量の枝肉が出品されていたこととなります。

また、ロース芯面積も大きいもので 95 cm<sup>2</sup>、小さいもので 47 cm<sup>2</sup>、平均では 69.9 cm<sup>2</sup>と、29 年次の全国平均 62.5 cm<sup>2</sup>より大きい数字になっ

ています。バラの厚さについても最も厚いもので 10.2 cm、平均では 8.5 cm と、こちらも全国平均値 8.0 cm より厚い数字になっており、肉量の期待できる厚みのあるしっかりした体型の枝肉が多く見受けられました。また肉質面では、5 等級の条件である BMSNo. 8 以上のものが 60.5% を占め、5 等級以上も 60.5% と肥育技術の高さの証しであり、大いに評価したいと思います。

雌についても、平均重量は 506.7 kg、ロース芯面積は大きいもので 93 cm<sup>2</sup>、小さいもので 59 cm<sup>2</sup>、平均 70.8 cm<sup>2</sup> と 29 年次の雌の全国平均値 57.7 cm<sup>2</sup> をかなり大きく上回っており、バラの厚さも平均 8.6 cm で、それぞれ昨年 of 全国平均を上回る値となっています。雌の肉質についても BMSNo. 8 以上が 52.9% を占めており、光沢の良いものが揃っていました。

瑕疵については、本日の出品牛には、シコリが 6 頭、ズルが 2 頭、シミと割除・アタリ・ソノタが各 1 頭ずつありました。瑕疵の総数は昨年に比べ若干減っていますが、瑕疵は枝肉の評価を大きく下げる要因となりますので、この共励会では「シコリ」が 6 頭と目につきましたが、「アタリ」などの避け得る瑕疵については、より一層慎重、丁寧な取り扱いで未然に防いで頂きたいと思います。牛もストレスのない環境で肥育されることにより、肉質向上につながることも考えられますので日頃の管理に充分取り組んで頂きたいものです。

入賞牛については、最優秀賞が 1 点、優秀賞 3 点、優良賞 4 点を選ぶということで、牛枝肉取引規格に基づく格付結果をもとに、枝肉の姿かたち、切開面のサシの形状や入り具合、ハシリ、腿のサシの状態などを総合的に判定し、各審査員が厳正に審査のうえ投票形式にて決定いたしました。

公平な投票の結果、最優秀賞には、枝肉番号 65 番、松永牧場さんが出品された枝肉が満場一致で選ばれました。この枝肉は重量 488 kg、ロース芯面積 94 cm<sup>2</sup>、バラの厚さ 8.7 cm、BMSNo. 12 で、「きめの

細かさ」に優れ、モモ抜けとハシリのヌケがよい、そして「美味しそうな肉質」というところも含め総合的に肉質が一番優れていました。また、歩留面では、ロース芯が大きくバラも厚く、歩留基準値も 80.0 とかなり高い数値が出た体型にも優れた良好な枝肉でした。

優秀賞 3 点については、枝肉番号 62 番、南信酪農業協同組合の黒内拓美さん出品の去勢枝肉、枝肉番号 84 番、日高見牧場の佐藤健さん出品の去勢枝肉、枝肉番号 102 番、加藤ファームさん出品の去勢枝肉を選出しました。ロース芯が大きくバラの厚い枝肉で、BMSNo. はNo.12 が 2 頭、No.11 が 1 頭といずれもサシが充分入った腿ぬけもよく、ボリューム感のある枝肉でした

優良賞 4 点についても、BMSNo. 11 と 10 が各 2 頭で、いずれも甲乙つけがたい枝肉の中から、得票の多かった枝肉番号 88 番、99 番、115 番、119 番の 4 頭を選出しましたので、褒章下さるようお願いいたします。

最後になりますが、今回の共励会が、家畜改良事業団の種雄牛を使用した受精卵移植により生産・肥育され、このような好成績をおさめられ、今後とも品質の高い和牛生産に向け更に発展することを祈念いたしまして、審査報告といたします。